

CSR SECTION

CSR情報

お客さま	50
従業員	52
株主・投資家	54
取引先	55
地域・社会	56
地球環境	58

CSR基本方針

ヤマハ発動機グループは、社会からより信頼される企業として、国内外の法令ならびにその精神を遵守するとともに、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切に、企業理念に基づく事業活動を通じて、社会の持続可能な発展に貢献します。

取引先においても、この方針の趣旨を支持し、それに基づいて行動することを期待します。

お客さま

- 安全で高品質かつ革新的な製品とサービスを通じて、世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供します。
- 製品に関する有益な情報を分かりやすく提供します。
- お客さまをはじめ事業活動にかかわる人々の個人情報保護の徹底に努めます。

株主・投資家

- 長期安定的な成長を通じた企業価値の向上をめざします。
- 事業・財務状況と成果の適時かつ適正な開示を行います。

従業員

- 均等な雇用機会を提供し、従業員の多様性を認め、差別を行いません。
- 公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境を維持・向上するよう努めます。
- 人権を尊重し、いかなる形であれ児童労働・強制労働は行いません。
- 従業員と会社が、相互信頼に基づき、誠実な対話と協議を行い、お互いに繁栄するよう努力します。

取引先

- 調達先や販売店などの取引先を尊重し、相互信頼に基づき、長期的視野にたって相互繁栄の実現に取り組みます。
- 調達先の決定にあたっては、国籍や規模にかかわらず広く世界に門戸を開き、総合的な評価に基づき判断します。
- 各国・地域の競争法を遵守し、公正な取引を維持します。

地域・社会

- 各国の文化・慣習を尊重し、企業市民として社会との調和に努めます。
- 納税、雇用創出、モビリティ創出などを通じて、健全な地域社会の発展に貢献します。
- 人材育成、環境保全、交通安全普及など社会貢献活動を推進し、また従業員の自主的な活動を支援します。
- 行政府諸機関との健全かつ公正な関係を維持します。

地球環境

- 環境技術の開発を進め、環境と経済が両立した製品の実現をめざします。
- 限りある資源を大切に、事業活動による環境負荷の最小化に努めます。
- 幅広く社会と連携・協力し、環境保全活動に取り組みます。

お客さま

お客さまに感動を伝えるモノ創り企業を目指して

お客さまとの関係をより密に続けていくことによって高められるもの、それがヤマハ品質であり、常に全社員が品質の向上・充実の努力を続けなければならないと考えています。ヤマハ発動機グループでは「お客さま基点」の強化とお客さまの声をさらに活かしたモノ創りのために、品質向上に向けた取り組みを継続し、より満足度の高い製品をお客さまにお届けできるように努めています。ここではヤマハ発動機CSR基本方針に掲げているお客さまとの関わりにおいて、重視している取り組みの一部をご紹介します。

品質向上への取り組み

台湾のYMTT*は、主要取引先39社が参加する品質連絡会議を、台北と高雄で2014年7月に開催しました。会議でYMTTは2014年の品質改善活動の好事例と、品質保証マニュアルについて説明を行いました。YMTTは、各活動の背景と目的を台湾のサプライヤーに十分に理解いただくことに努め、品質向上と顧客満足度の向上を目指すとともに、世界のヤマハ工場に良い品質の部品を供給し続けてまいります。

*YMTT: 台湾山葉興業股份有限公司

新たな感動の提供

『TRICITY』は、旋回時にフロント二輪が車体と同調して傾く当社独自の「LMW」(リーニング・マルチ・ホイール)機構を備えた新しいシティコミューターです。それぞれ独立したサスペンションとリンク機構を持つフロント二輪が路面の変化にしっかりと追従することで、石畳や荒れた路面、またタンDEM(二人乗車)走行時でも快適な乗り心地を実現します。

より多くの方に親しみやすさを感じていただきたいという思いは、開発のプロセスでも遺憾なく発揮されました。扱いやすい軽量・コンパクトな車体設計(車幅は当社125ccスクーターと同レベル)はもちろん、女性が乗り降りしやすいフラットなフットボードなど、幅広いユーザーの使用を想定した仕様や機能が細部にまで施されています。

世界の都市交通をよりスマートに、より快適に。そしてより楽しく——。ヤマハが提案する次世代シティコミューターのスタンダードが、いまモビリティの世界を大きく広げようとしています。

お客さま対応/サービス

ヤマハ発動機では、世界18の国と地域から選ばれたヤマハ二輪サービスマン(ディーラー・販売店のメカニック)20名がサービス技術力を競い合う「第6回ヤマハワールドテクニシャングランプリ2014」を開催しました。

ヤマハワールドテクニシャングランプリは、お客さまが世界中どここのヤマハディーラーに向向いても高品質な均一のサービスが受けられることを目的に、“One to One Service(一人一人のお客さまとのより良い関係づくり)”という理念のもと2000年より推進しているヤマハ独自のサービスマン教育プログラム「YTA(ヤマハ・テクニカル・アカデミー)」の一環です。全世界のヤマハ販売店のサービスマカニックの技術向上とヤマハグループの意識高揚を図ることで、お客さまにより良いサービスを提供し、かつお客さまの満足度を高めようと世界各地でコンテストを実施しています。

<http://global.yamaha-motor.com/jp/news/2014/1006/wtgp.html>



第6回ヤマハワールドテクニシャングランプリ2014

安全運転普及活動

スペインでの子どもたちのイベントに参加

2014年10月、子どもたちのためのヨーロッパで最も大きなイベントが、バルセロナ(スペイン)で開催されました。2日間のイベントで350,000人以上が来場したこのイベントで、YMESM*は2歳から6歳の子どものためのトレーニング・エリアのホストを務めました。

バルセロナ市内をオートバイで通勤するメリットを説明したヤマハ・アカデミー・コースを、約3,000人の子どもたちが子ども用の木製自転車で走りました。

*YMESM: Yamaha Motor España Marketing S.A.



子どもたちのためのヨーロッパで最も大きなイベントが、バルセロナで開催されました。

従業員

グローバルな視野から価値を共有できる組織づくり

ヤマハ発動機グループでは、グローバルな視野から個人と会社が「高い志を共有し、研鑽しあい、協力しあい、喜びを分かちあう」組織体制を目指し、多様性が尊重される職場づくりを進めています。

人材育成／キャリア支援

グローバル人材育成の推進

ヤマハ発動機は、ますます高まる世界規模でのビジネス展開を踏まえ、国内外グループ会社経営者間のディスカッションによる課題共有の場を設定した上で、海外拠点で採用された社員の現地経営幹部層への登用拡大や、日本社員の海外経験の加速などを通じ、これまで以上にグローバルに活躍する人材の育成を積極的に進めています。

2014年1月に第2期GEP*がスタートしました。GEPはヤマハ発動機グループで将来のリーダーとなる人材の育成と、受講者間のグローバルなネットワークの構築を目的とした研修プログラムです。9カ国15人の研修生は、1年間かけてヤマハ発動機グループの将来像について活発な議論を行います。

*GEP: Global Executive Program グローバル経営幹部育成プログラム



仕事と生活の両立支援

自立的で創造的な仕事環境を目指して

ヤマハ発動機グループでは、従業員と会社の関係を「ビジネスパートナーシップ」、会社が担う役割を「自立した個人に対する魅力づくり」と定義し、相互確認を前提としたキャリアプランの設計を支援するとともに、育児・介護休職制度などのワークライフバランス(仕事と生活の両立)を確保した職場づくりを目指しています。また、従業員が各自の状況に適した働き方ができるように選択肢の充実に取り組んでいます。

職場の安全衛生

安心して快適に働ける職場環境を目指して

ヤマハ発動機では、中央安全衛生委員会が中心となって、安全な労働環境の整備をグローバルに推進しています。労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS*)に基づいてリスクアセスメントを実施、職場の潜在的な危険性や有害性の発見に努め、労働災害防止活動に取り組んでいます。また、安全管理者研修や監督者の能力向上研修などの階層別の教育・研修、安全衛生大会の開催などを通じ、安全を支える人材の育成にも注力しています。

*OSHMS: Occupational Safety & Health Management System

多様性を活かした職場づくり

ヤマハ発動機グループは「企業活動の原点は人」という基本認識のもとで人権に対する考え方を『CSR基本方針』『倫理行動規範』のなかで明示しています。

ヤマハ発動機は、「障がい者と健常者が一緒に就労できる職場運営を行う」という考えのもとに「障がい者雇用促進委員会」を設置し、各部門に配置した担当委員が行う業務分析などによる職場環境の整備に努めています。2014年12月末の時点で重度障がい者78名、軽度障がい者65名の計143名が活躍していますが、障がい者雇用率は1.96%となっています。日本では2013年4月1日以降の障がい者法定雇用率が1.8%から2.0%に引き上げられ、ヤマハ発動機では障がい者雇用水準を高める追加の施策を現在進めています。今後も障がい者雇用を進めていくことで、障がい者と健常者が共に生活できる社会の実現に努めてまいります。

また、ヤマハ発動機では、従来から社内託児所、育児休職制度、短時間勤務制度の充実等、多様性が尊重される職場づくりを進め、「男女共同参画社会づくり活動に関する知事褒賞」や「ファミリーフレンドリー企業表彰」などを受賞してきました。今後はさらに、女性の就労機会を積極的に拡充すると同時に、計画的な人材育成を推進し、女性管理職数を2020年までに2倍*、2025年までに3倍*とすることを目指します。

*2014年対比

【主な取り組み】

1. 採用における女性比率向上
2. 子育て世代の社員へのより働きやすい環境の提供
3. 女性の活躍の場を拡大するためのキャリア形成支援や能力開発および職域開拓

心と体の健康のためのサポート

ヤマハ発動機では、従業員の心と体の健康維持・改善を支援するためにさまざまな活動を推進しています。

生活習慣病の予防・改善については、ウォークラリーイベントの開催、年2回の「歩け歩け運動」の実施などを通じて、運動習慣による肥満の防止や持久力向上に努めるなど、健康で活力のある職場づくりに取り組んでいます。また、禁煙の取り組みを支援するために、健康保険組合との協働で希望者に対する禁煙補助剤の提供や禁煙指導を行っています。

2014年は喫煙率低減・受動喫煙防止活動として時間制喫煙、喫煙場屋外化、禁煙支援に取り組み喫煙率低減につなげた結果、喫煙率は29.7%となりました。メンタルヘルスに関するサポートとしては、産業医による保健指導、新任基幹職・監督者を対象としたメンタルヘルス研修、海外駐在員や中途で入社した社員に対する支援といった取り組みを引き続き実施しています。

株主・投資家

ヤマハ発動機では株主・投資家の皆さまに正確かつ適切な情報を適時に提供し、説明責任を果たすために、専門部門を設置して国内外でのIR活動を実施しています。

四半期ごとの決算・株主総会に加え、海外の投資家訪問によるIRミーティングや、IR情報のウェブサイトでの開示、個人投資家向けのウェブサイト運営も行うとともに、アナリスト・ジャーナリスト向けに、事業説明会を行い、その模様を動画でウェブサイトに公開することで、より多くの株主・投資家の皆さまが当社経営戦略の理解を深めていただけるよう、情報開示に積極的に努めました。

事業説明会(2014年9月12日開催)資料

http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/report/pdf/2014/Yamaha-motor_Business_information_session_jp.pdf

事業説明会の動画

<http://youtu.be/sq2AQ0jukzY>



株主や投資家の皆さまに向けた情報は、ウェブサイトの「IR情報」で開示しています。

ディスクロージャーポリシー
<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/policy/>

配当方針
<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/shareholder/dividend/>

IR情報(トップページ)
<http://global.yamaha-motor.com/jp/ir/>



IRサイト

取引先

協働と公正の精神に基づくグローバル調達・販売ネットワーク

ヤマハ発動機の製品は、国内外のさまざまなサプライヤーとの協働によって成り立っています。ビジネスのグローバル化によって拡大していく調達・販売体制の中で、ヤマハ発動機グループは「相互信頼・相互繁栄」の精神に基づいて国内外さまざまなサプライヤー・販売店との協働関係を確立しています。そのため日ごろから、各国・地域の競争法を遵守した公正な取引の維持に努め、ともに持続可能な成長を目指すパートナーとしての関係構築に取り組んでいます。

サプライチェーンでの取り組み

ヤマハ発動機グループでは、サプライチェーンとの関係において、「モノを買う調達」だけではなく「コストと品質を一緒に創りこむ“モノ創り調達”」という考えを重視しています。

この活動例として「理論値生産[※]」のサプライヤーへの展開があります。これはサプライヤーに対して単にコストダウンを要求するのではなく、モノ創りの絶対価値をサプライヤーの皆さまと分析設定し、どうコスト競争力を高めるかに向けてともに取り組んでいくものです。

ヤマハ発動機では「理論値生産」を国内外のサプライヤーに展開を進めるために「理論値インストラクター」として社員を教育し派遣することで、ともにコスト競争力強化に取り組ん

でいます。また、環境負荷低減・資源エネルギー効率活用のための「グリーン調達ガイドライン」や、安全・品質・コンプライアンスに関する「調達先CSRガイドライン」についての研修会などを通じて公正でクリーンな調達活動をグローバルに推進しています。

※理論値生産：生産におけるさまざまな作業を分析して本当に価値を生む作業だけを価値作業とし、それ以外を排除していく作業ロス削減手法の一つです。一般的な手法が現状からみたムダの排除を積み上げていくのに対して、最初に理論上の価値作業を分析設定し、その実現に向けた改善に取り組むものです。

販売店との取り組み

世界各国で展開する販売店は、お客さまとの接点として、ヤマハからの「次の感動」を伝える重要な発信地の役割を担っています。ヤマハ発動機グループでは、定期的にディーラーミーティングなどを開催して販売店との連携を強化し、安全運転普及活動や地域貢献活動支援を通じて、共通の価値を提供する販売ネットワークを構築しています。

日本では、ヤマハスポーツバイクディーラーであるYSPを主とした販売店とグループ会社のヤマハ発動機販売(株)が協働で、二輪車の社会環境づくり、マナー促進活動、二輪車リサイクル、植樹キャンペーン環境活動、盲導犬育成募金活動などに取り組んでおり、地域や社会との関係構築において重要な役割を担っています。

地域・社会

ヤマハ発動機グループの活動拠点は、世界各地に所在し、地域社会の人々に支えられて事業活動を行っています。また、私たちの製品が世界各地の人々に利用され、より豊かな生活に役立つよう願っています。私たちは企業と地域社会との共存共栄を図り、持続可能な関係が重要であるとの認識に立ち、そのためには地域のステークホルダーの皆さまと日常的なコミュニケーションを通じて、信頼関係を維持・向上することが大切であると考えています。

ヤマハ発動機グループの取り組む社会貢献活動は、「将来を担う人々の育成」「地球環境の保全」「交通安全普及」「地域社会の課題」の4つを重点領域としています。ヤマハ発動機ではグループ会社が実施している社会貢献活動を重点領域ごとに集計し社内で共有することで、地域社会との「共通価値の創造(CSV)」につながる意識の啓発を続けています。ここでは年度ごとの活動を集計した社会貢献活動の中から、一部の事例をご紹介します。

社会貢献活動の重点領域

取り組みテーマ	グローバル課題			ローカル課題
	将来を担う人たちの育成	地球環境の保全	交通安全普及	地域社会の課題
活動内容	・スポーツを通じた心身の育成 ・モノ創りを通じた創造性の育成、など	・地域社会への環境教育 ・生物多様性の尊重、など	・社会への交通安全教育 ・啓発活動、など	・当社製品や人材、ノウハウを使った地域支援、など

将来を担う人たちの育成

女性の社会進出を支援する取り組み

インドの女性の地位向上と就業率向上を図るため、IYM[※]は2012年9月にインド北部にあるウッタル・プラデーシュ州政府と提携し、女性向けの職業研修プログラムを立ち上げました。同州スラジプールの工場で女性160名が、研修生としてスクーター製造ラインでエンジンや車体組立といった職業訓練を受けています。

研修中は職業研修プログラムに従って賃金が支払われるだけでなく、従業員と同様の昼食や医療、通勤手当などの福利厚生も受けられるようになっています。

このプログラムを通じて3年間の実地研修(OJT)を終え、

試験に合格すると産業訓練研究所の資格証明書が取得でき、就職活動が有利となります。優秀な研修生は、IYMの従業員として登用されることもあります。

IYMでは、家族を養う賃金を得る機会を与えるだけでなく、研修生に対し「自分は社会に貢献できる存在である」という自信を養うこのような取り組みを通して、女性の地位向上に貢献しています。

※IYM: India Yamaha Motor Pvt. Ltd.



地球環境の保全

当社製品を利用したクリーン活動in浜名湖

当社製品を利用して自然を守る取り組みとして、浜名湖のクリーン活動を当社ウォータービークル事業部門が行っています。クリーン活動当日は、水上オートバイやスポーツボート・和船に乗り、湖上から湖岸に上陸しクリーン活動を展開しています。

ボートや和船を利用して湖上側から湖岸の清掃活動を行うことにより、陸上側からでは下りられないような湖岸の清掃活動も可能となり、清掃範囲が広がりました。

今回で4回目となるウォータービークルクリーン活動は、従業員など64名が参加して大崎海岸の約5.5kmにわたる湖岸で行われ、約2時間でゴミ袋85袋(約100kg)分のゴミを回収し、湖西市清掃局に引き渡しました。



交通安全普及

世界各地で開催されるYRA (ヤマハラディングアカデミー)

アジアを中心にヨーロッパ、アメリカなどで行っているYRAは、オートバイの免許を持っている人だけでなく、これから免許を取得する人や、小学生から高校生といった幅広い人々を対象に開催しています。また、モーターサイクルだけでなくATV(四輪バギー)、スノーモビル、ウォータービークルのYRAも各地で開催されています。

インドでは、ファミリー向けスクーターを販売したことを契機に、主婦層を中心としたライディングトレーニングプログラムを開始しました。定期開催プログラムとして、インド国内各地のマンション敷地内などの住宅地で実施され、参加者に対して交通規則を守った安全な運転を指導し、事故の防止を目指しています。



地域社会の課題

地域の学校を支援

ヤマハ発動機グループでは、大学や高校、専門学校などの教育機関へのオートバイ寄付や技術指導はもちろんのこと、近

隣の幼稚園や学校、養護施設で直面している問題にも支援を行っています。

その一つとしてタイのTYM^{※1}は、ワット・サムマカン学校で図書館をつくるためのレンガづくりに、従業員とヤマハクラブ会員合わせて約100名が協力し、砂質粘土を混ぜて成型し、日なたで干す作業を行いました。

また、同じタイにあるYMPT^{※2}は、2014年9月に起きた洪水被害で影響を受けたチョンブリー県にあるワット・パーントーン学校に60名の従業員が出向き、フェンスや通用門の補修、ペンキ塗りに汗を流しました。

そのほかにも、アルゼンチンのYMARG^{※3}では、養護施設に学校用品を寄贈、ヤマハ発動機でも毎年特別養護施設に訪問し施設修理や生徒との交流を行っています。

※1 TYM: Thai Yamaha Motor Co., Ltd.

※2 YMPT: Yamaha Motor Parts Manufacturing (Thailand) Co., Ltd.

※3 YMARG: Yamaha Motor Argentina S.A.



従業員によるボランティア活動の事例

スポーツに関わる活動を通じたボランティア

ヤマハ発動機グループでは、従業員のボランティア意識の啓発と行動を始める“きっかけ作り”として2004年から「4万人のV(ボランティア)作戦」を展開しています。「4万人のV作戦」は従業員一人一人が年1回ボランティア活動をすることで、グループ全体で年間4万人が社会貢献を行うことを目指しています。

ヤマハ発動機の本社がある静岡県は、日本でも有数のサッカーや野球といったスポーツが盛んな地域であり、従業員ボランティア活動においても年間延べ約39,000件のうち3割以上がスポーツに関わる活動を行っています。ヤマハ発動機では、従業員によるボランティア活動をサポートするために、同じ思いを持った仲間を紹介する社内イントラネットのサイトが開設されており、ここに登録紹介されているグループの一つにヤマハ発動機ラグビースクールがあります。

ヤマハ発動機ラグビースクールはヤマハ発動機ラグビー部OBが中心に活動しており、ラグビーを通じて仲間との協調性を養い、思いやりの心を育て、健康な身体育成に重点を置いた指導・活動を行っています。



地球環境

地球環境との調和に努め持続可能な社会の実現を目指して

ヤマハ発動機グループは、2010年に策定した『グループ環境計画2020』に基づき、地球環境や社会との調和に努め社会的責任を果たす企業を目指します。

環境活動の計画

ヤマハ発動機グループ環境計画2020

取り組み分野		重点取り組み項目	2020年目標
エコプロダクツ	環境・お客さま基点の製品開発による『環境魅力向上』	エコプロダクツの領域は、全社の長期ビジョン“Frontier2020”として展開する	
		「環境負荷物質のリスク低減」 「グリーン調達」の推進	環境負荷物質の把握と代替の推進
エコオペレーション	環境負荷最小化を目指したグローバルな事業活動による『環境保全』	温室効果ガスの排出量削減	CO ₂ 原単位で年平均1%削減
		「3Eで3Rを」 「水使用量の削減」 3E:つくりやすく、直しやすく、分解しやすい 3R:リデュース・リユース・リサイクル	限りある資源の有効利用と循環利用の促進
エコマネジメント	グループ環境ガバナンスの仕組み強化による『環境管理』	「グループ全体の環境管理システムを構築し運営」	グループ全体の運営とローカルな活動の連携が取れている
エコマインド	持続可能な地球環境を目指した多様なエコ活動による『環境貢献』	「継続的な環境教育による意識改革」	グループ全員が高い目標意識で環境取組を積極的に行っている
		「感覚環境(臭気、騒音など)の改善」 「地域とのコミュニケーション」 「生態系の保全」	企業市民として地域から信頼され、敬愛を受けている
		「環境を切り口とした積極的な情報発信」	環境先進企業として社会から高い評価を受けている

環境経営を推進する体制

ヤマハ発動機グループでは、代表取締役副社長を委員長とする「環境委員会」を国内外における環境活動の中核を担う組織として位置づけています。この委員会が、環境に関わる活

動の方針やビジョン、中長期の環境計画、環境保全に関連する戦略投資案件、環境モニタリングに関する事項および課題への対応、そのほか環境経営に関する重要課題についての審議を行っています。

直接/間接排出ごとの温室効果ガス排出量の把握と排出量削減活動

ヤマハ発動機グループでは、温室効果ガスの排出において、エリア別に、企業活動による直接的な排出(工場で使用する燃料の燃焼等からの直接的な排出)と、間接的な排出(工場・オフィスでの電力使用量等による間接的な排出)を把握し、その削減に努めています。2014年度は、2013年度比で生産額は増加しましたが、省エネ設備の導入等を進めることで、総排出量を減少させることができました。

2014年はヤマハ発動機グループとして初の海外工場へのヒートポンプ式^{*}加温システムを導入し表面処理設備の消費電力削減に取り組みました。ヤマハ発動機グループでは2011年の袋井南工場、2013年の浜北工場に引き続き3例目の導入事例となります。

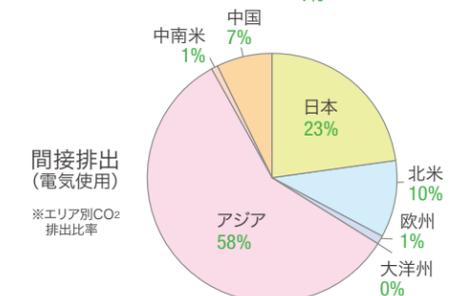
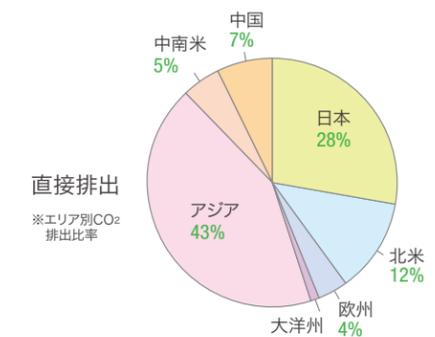
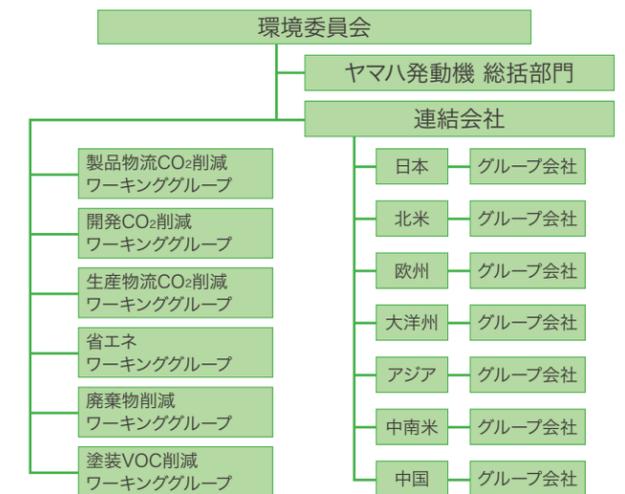
今後もヒートポンプ式加温システムを国内・海外の工場に対し随時導入していく計画です。また、エリア別の間接・直接排出量をより詳細に把握し、各工場・各事業所ごとに一層の排出量削減に向けた活動をしてまいります。

^{*}ヒートポンプとは、気体は圧縮すると温度が上がり、膨張すると温度が下がるという自然の原理を応用して、周りの空気から熱を集め利用することで、小さな投入エネルギーで大きな熱エネルギーが得られる省エネ技術です。



インド チェンナイ工場のヒートポンプ

ヤマハ発動機グループの環境企画・推進組織



ヤマハ発動機グループのCO₂排出量の推移

ヤマハ発動機グループは、二輪車を中心とした輸送機器メーカーであり、温室効果ガスの削減を環境分野における最重要課題として取り組みを進めています。

グループ共通の目標としては、「CO₂原単位削減1%/年」を設定し、製品の開発、製造など、事業活動全般における温室効果ガスの削減を進めています。

また、グローバルユーティリティコスト削減活動を2013年より開始し、環境性(CO₂削減)に加え、経済性との両立を目指した活動を展開しています。日本で培った省エネ技術を国内および海外グループ会社へ展開することで、グループ全体を通じた効率的な活動となります。2014年度は2013年度に対し原単位17%の改善ならびに約23億円のコスト削減を実現しました。CO₂排出量は、35千t-CO₂削減し584千t-CO₂となりました。今後もさらに、国内・海外のグループ会社によるエネルギー使用量削減に向けた活動を加速させ、世界規模での環境性向上と経済性向上を目指していきます。

ヤマハ発動機グループのエネルギー投入量

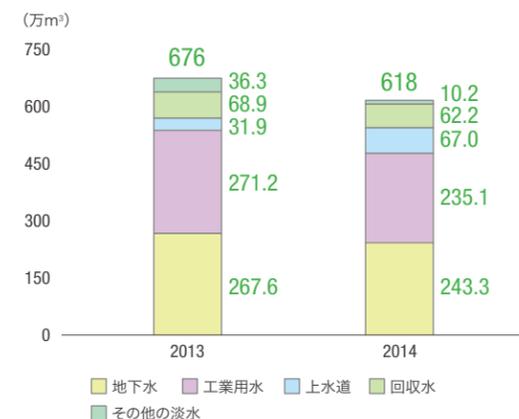
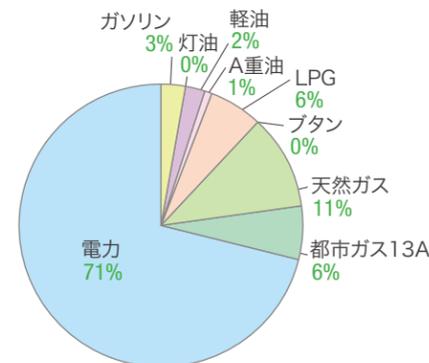
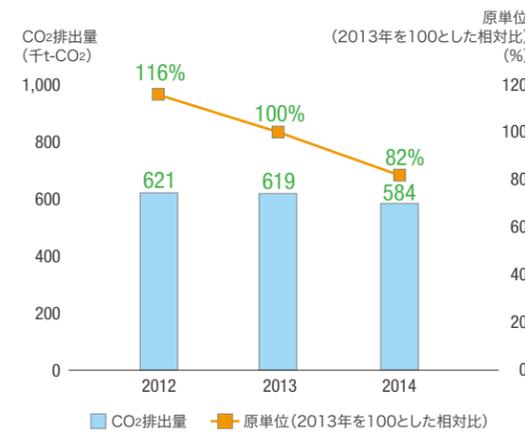
ヤマハ発動機グループの2014年度のエネルギー投入量は全体で1,105万GJとなり、71%が電力で790万GJが投入されています。そのうち、約80%が日本を含めたアジアで占められています。電力使用量削減のため、電力見える化設備導入による現状分析と削減活動の実施、工場への省電力設備の導入、事務所におけるLED照明の導入などに計画的に取り組んでいます。

水資源の把握と削減

ヤマハ発動機グループは水資源使用量の把握に努めています。2014年度に把握できた使用量は、グループ全体で前年より58万m³減の618万m³となり、主な使用状況は39%が地下水で243万m³、38%が工業用水で235万m³となりました。

限りある資源の有効利用と、循環利用の促進を目標としており、グローバルな水使用量の把握の継続に努め、工場での冷却水循環化や回収水(雨水など)の利用をはじめ、水使用量の削減に取り組んでいます。

ヤマハ発動機グループ CO₂排出量



TOPICS

“GREEN CORE”思想に基づいた電動自転車用ドライブユニットを開発

ヤマハ発動機は、「軽量・コンパクト・高性能」による走りの楽しさと環境性能を高次元で具現化するスマートパワー・ドライブユニットコンセプト“GREEN CORE(グリーンコア)”に基づいた次世代の電動アシスト自転車用ドライブユニットを開発、2015年モデルより順次搭載していきます。このドライブユニットは、チェーン合体式ユニットの中で小型最軽量クラスを達成しながら、レアアースなどの使用量を大幅に削減し、現行ユニットと同等の最大出力を発揮する高性能小型ドライブユニットです。軽量アルミフレームに搭載することにより、車両の重量をさらに低減し、ドライブユニットの低重心設計と相まって自転車の取り扱いやすさやデザイン性を向上させることが可能です。当社は今後、このドライブユニットを「ナチュラ」シリーズをはじめとするPAS 2015年主要モデルより順次搭載していくほか、国内の電動アシスト自転車メーカーへの供給も行います。なお、“GREEN CORE”思想は、今後の新たなドライブユニットの展開においても継承していきます。



“GREEN CORE”思想に基づいた次世代ドライブユニットの特長

1. 小型・軽量：容積を約16%削減、重量を約20%軽量化
2. 低重心設計：重心を12mm下げた新設計構造
3. 高性能出力：現行ドライブユニットと同等の100N・mの最大トルクを発揮
4. 環境性能：レアアース35%、アルミ28%、銅線40%使用量削減

グローバル環境ISO14001統一認証の拡張進む

ヤマハ発動機グループでは、『グループ環境計画2020』の重点取り組み分野の1つである『エコマネジメント』に基づき、グループ環境ガバナンスの仕組み強化および環境マネジメント活動の効率的な運用のため、海外拠点を含むグループ会社を対象としたグローバル環境ISO14001統一認証化の取り組みを2012年4月から進めています。

対象となる主な製造拠点は、日本・欧米・アセアン・中国・台湾・インド・南米の各地域で39社あり、2014年末時点で26社(進捗率67%)が統一認証に参加しています。

また、比較的環境負荷の少ないグループ会社に対しても、ヤマハ発動機グループ独自の環境マネジメント認定制度を導入し、グローバルな環境活動を推進しています。

これらの取り組みによって、グループ各社の環境マネジメント活動がマネジメントレビュー等を通じて報告され、本社との双方向の情報共有が進みました。また、不適合情報や改善事例をグループで共有することで是正改善プロセスのレベルアップにつながっています。さらに、効率面では、統一認証以前に比べ大幅なコスト低減を実現しています。

今後は対象となるグループ会社全39社の統一認証化に向け、さらなる取り組みを推進していきます。



2014年YIMMで統一認証の導入説明会を実施